

## 平成 30 年度学校教育懇談会(西地区)要点記録

日 時	平成 31 年 2 月 5 日 (火) 10 : 00 ~ 11 : 32	場 所	ひかりプラザ 教育資料室
懇談会 概要	○開会 1 市長あいさつ 2 自己紹介 3 懇談 ・ICT教育について(資料あり) 4 その他 ○閉会		
出席者 (順不同・ 敬称略)	[市長] 井澤 邦夫  [教育長] 古屋 真宏  [教育委員会委員] 富山 謙一(教育長職務代理者), 戸塚 晃, 佐久間 博美, 大木 桃代  [学校長] 茂呂 雅仁(第二小学校), 竹泉 稔(第五小学校), 畑 和男(第六小学校), 橋本 弥記(第八小学校), 鈴木 恒雄(第十小学校), 松本 信之(第三中学校), 花田 茂(第五中学校)  [保護者] 原田 浩(第二小学校 PTA 会長), 岡田 光弘(第五小学校 PTA 会長), 小室 美佳(第八小学校 PTA 会長), 藤原 和彦(第十小学校 PTA 会長), 松下 博子(第三中学校 PTA 会長), 西川 葵(第五中学校全体学年委員長)  [事務局] 堀田 順也(教育部長) 日高 久善(教育総務課長), 千田 和宏(教育総務課庶務担当係長), 松浦 素明(学校指導課長), 大島 伸二(学校指導課統括指導主事), 山田 隆史(教育総務課企画係長), 大嶽 みなみ(教育総務課企画係主任)		

### ○ 開会

司会進行：古屋教育長

#### 1 市長あいさつ

- ・学校教育懇談会では、現場にいらっしゃる保護者の方や学校長から貴重な御意見をいただいている。この御意見をしっかりと生かしていきたい。
- ・ICT 教育は、子どもたちにとって非常に重要であると考えている。インターネットやタブレットなど教育に活用することで、効率的、創造的な教育ができるよう進めていきたい。
- ・インターネットが社会に普及しており、使い方について基礎的な教育としてしっかりと教えていくことが必要。
- ・本日も忌憚のない御意見を聞かせていただきたい。

#### 2 自己紹介

- ・全員が順に自己紹介を行った。

#### 3 懇談

- ・ICT を活用した教育を進めていくにあたっての御意見、子どもたちに身につけさせたいこと、

学校・家庭・行政での取組，ICT教育に期待すること等について懇談を行っていききたい。

#### ※主な意見を抜粋

##### ○学校の現状・課題について

- 小学校では，担任の先生がプログラミングを教えることになると思うが，専任の教員を配置する予定はあるのか。  
→国・都が考えていない。プログラミングという授業はない。
- プログラミング教育の授業の内容が同じであっても，授業でパソコンやタブレットを使う際に，その操作に不慣れな教員と得意な教員で差が出てしまう。
- パソコンやタブレットの操作に長けている教員に講師になってもらい，教員向けの研修会を開催した。教員自身の苦手意識を取り除くことが大切。
- プログラミングの授業で，子どもたちが楽しく学ぶ姿を見ることが教員の意欲につながる。まずやってみることが大切。

##### ○学校に期待することについて

- ICT支援員について，全校に配置してほしい。  
→現在検討中。機器の操作や接続の補助に入ってもらうなど，教員が授業を行いやすい環境になるよう支援していききたい。
- プログラミング教育の授業の模範となる型が学年ごとにあるのか。  
→プログラミング教育推進校での授業プランがそれにあたるが，全ての学校で同じ授業を行う必要はない。様々な教科での授業プランを各学校が各教科の指導計画に位置付け，それに沿って授業を行う。  
→基礎となる一定レベルの授業を全校で共通して行うよう，各学校に働きかけていただきたい。
- プログラミング教育の授業を公開してほしい。それを見て，保護者からの意見を言える場を設けてほしい。
- 学校に新しいICTシステムを導入することに伴い，子どもの欠席連絡は電話ではなくメールなどのできるようになるのか。  
→検討していなかったが，できるかもしれない。電話で保護者から直接話を聞くことが大切ではある。一つのアイデアであると思う。

##### ○家庭での取組について

- 子ども自身の得手不得手や家庭でのICTへの関わり方に差があるのではないかと。
- 現代の先生方は，業務量が多い上にプログラミング教育も増えて大変だと思う。家庭でも学校をサポートしたいが，できることが思いつかない。家庭でもできることを探していききたいが，学校からも何をしてほしいかを教えていただきたい。
- 家庭では，学校だけではできない様々な経験・体験をさせることが大切。例えば，プログラミング教育の授業で，家庭でのお手伝いをテーマにしても，お手伝いをしたことがないと難しい話になってしまう。

##### ○プログラミング教育について

- プログラミング教育で重要なことは，論理的な思考を身につけること。そのため，必ずしもパソコンなどを使わなくてもよい。
- コンピュータやAIを知らないでこれからの生活を送っていくことが不可能であるから，プログラミング教育を行うのだろうと思う。人間が人間らしく生きるための教育であると思う。子どもたちにとってプログラミング教育は本当に良いのだろうかと考え続けていくことが大切。

##### ○ICT教育に期待することについて

- ICT教育は，論理的思考力を身につけることが目的。最終的に，プログラムを組めるようになればよいのだが，論理的思考力が身につけばICT教育の目的は達成されるのではないかと。論理的思考力は，理系だけでなく，文系でも非常に重要な思考力で，人間が生きていくため

にどの場面でも要求される。それを身につける一つの方法としてプログラミング教育がある。肩の力を抜いて考えていけばよいのではないか。

- パソコンを使うことと、論理的思考力を身につけることを別のものとして考える必要がある。論理的思考力は必要な能力。それを養ったうえで、パソコンのためのプログラムを組むなどが必要。パソコンに使われるのではなく、自分の考えのもとでパソコンを使うことが大切。自分の思い込みが本当に正しいのか、立ち止まって論理的に考える力を小学生のうちに身につけてほしい。
- 得意不得意があると思うが、子どもたちがパソコンにも論理的思考にも慣れていくこと、とりあえず触れてみる、やってみることで苦手意識を少しでも減らしていくこと、全員が新しいものに取り組んでいくことが大切。また、得意な子どもが将来、プログラマーやシステムエンジニアになった時に、そういうことが得意でない人もいることを分かった上でなしてほしい。
- 論理的思考力を身につけるための授業計画が発達段階に応じて組まれている。論理的思考力を身につけることの上に、生きる力を身につけること、より良い人間として育ち、より豊かな社会の一員となっていくことが考えられているのではないか。

○市長がまとめとして発言

- これからは ICT に関わらないといけない時代。子どもたちには ICT を活用する要素を身につけさせる必要がある。大人も学ぶ必要がある。
- 一方で、懸念される心の問題は、家庭や学校で教えていく。
- 行政としては、学校教育で子どもたちに論理的思考力等を身につけさせるための ICT 教育の環境を整えていきたいし、提供していきたい。教育委員会や保護者と連携して行っていきたい。
- プログラミング教育の公開授業、報告会の機会を保護者に広報して行っていただきたい。
- プログラミング教育推進校である第六小学校の取組をベースにこれからの ICT 教育は進んでいこう。行政としてフォローしていきたい。

以上